

2019年(令和元年) 5月29日 水曜日

地域 20

第3種郵便物認可

# 父の故郷 親族と交流



富里ゼナイダスミコさん父の故郷へようこそ  
Fusato Zenaidasumiko-san, Welcome to Father's hometown.

歓迎会に集まった親戚らと笑顔を見せる富里ゼナイダスミコさん(前列中央)=27日、沖縄市・オキナワグランメールリゾート



富里ゼナイダ  
スミコさん  
(提供)

集まつた親族の中にはゼナイダさんと初めて対面する人も多く、年齢を感じさせない元気な様子に驚いていた。

「お父さんにそつくりさ」と話す人もあり、海を越えた血縁に感銘を受けている様子だった。

【沖縄】太平洋戦争前にフィリピンへ渡った眞出島男性と現地の日系人女性との間に生まれたフィリピン残留日本人で、26日いうるま市の津堅島で初めて亡き父の墓参りを果たした富里ゼナイダスミコさん(78)の歓迎会が27日、沖縄市内のホテルであった。県内の親族や関係者が集まり、ゼナイダさんと握手したり抱き合つたりして会いを喜んだ。

## 比国から来沖ゼナイダさん

余興で披露された三線や太鼓に思わず踊り出す場面もあった。ゼナイダさんは「こんなに多くの人と会えたことに感謝したい。温かく迎えてもらえたのは素晴らしいこと。幸せな気分」とつづり。会場に掲げられた歓迎の横幕を気に入り、「持ち帰りたい」と話して会場を盛り上げた。

## 沖縄市「幸せ」踊る場面も

旅の実現に尽力したゼナイダさんの異母弟の富里利雄さん(71)は「時間はかかったが、墓参りが実現してよかったです。ご苦労さまという気持ち。今後も末永く沖縄とフィリピンで行き来できたらうれしい」とあいさつした。

今回の来沖に協力したNPO法人フィリピン日系人支援事務局長は「沖縄の人優しさを感じた。若い世代の人たちも集まってくれたので、これを機に沖縄とフィリピンのつながりが深まってほしい」と期待した。

## フィリピンの富里さん(78) 太平洋戦争で離別



太平洋戦争前にフィリピンへ渡った県出身男性と現地の日系人女性との間に生まれたフィリピン残留日本人、富里ゼナイダスミコさん(78)が25日、亡き父の古里・沖縄の地を初めて踏んだ。戦時に父と離別したゼナイダさんは、うるま市津堅島への墓参りを強く希望していた。「ここに来られたのは亡き父からの贈り物。父の写真や墓を見ることができれば何も望むことはない」と涙を拭つた。

## 「墓参りがしたい」

戦後は親戚の家事手伝いで生活をつなぎ、ある日、伯母が保管していた母と自身の出生証明書を発見した。父が「富里山戸」(清繁さんの幼名)、自身の日本名が「スマコ」であることを知った。

フィリピン残留孤児の日本国籍取得を支援するNPO法人フィリピン日系人サポートセンターの調査で2007年、清繁さんが1996年に亡くなっていたことが分かった。

親族の出迎えを受け涙を浮かべる富里ゼナイダスミコさん(左から2人目)。右端は弟の富里利雄さん(25日午後4時すぎ、那覇空港(金城健太撮影)

# 残留孤児亡父の古里に

ゼナイダさんは津堅島出身の故富里清繁さんと日系2世の女性の長女としてフィリピンで生まれた。太平洋戦争を機に清繁さんは日本へ強制帰国。母は間もなく亡くなり、幼くして残留孤児となつた。

今年4月にも現地を訪問し、今回も沖縄に向けて調整してきた利雄さん。この日、妻の春枝さんと那覇空港国際線の到着口でゼナイダさんを出迎え「津堅島では多くの親族が待つている。父の墓参りを終えたら本島観光に連れて行きたく」と再会を喜んだ。

感じさせない元気な姿を見せたゼナイダさんは「父は79歳で亡くなつたと聞いている。同じ年齢を迎える前に来られて感謝している」

と語った。  
ゼナイダさんは26日に津堅島へ渡り、父の実家を訪問。29日にフィリピンへ帰る。

ゼナイダさんの孫でマニラから同行したイマリさん(17)は「おばあちゃんの願いがかなえられてうれしい」と笑顔。長旅の疲れを

実現したのは戦後70年の2015年。うるま市に住む異母弟の富里利雄さん(71)が日本国籍を取得したゼナイダさんの存在を新聞報道で知り、同年9月にフィリピン・リサール州を訪れた。